

ピンクリボンNEWS

2021年度
冬号
Vol.10 No.4

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動®

TOPICS

妊娠中の乳がん治療



長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科
腫瘍外科学
(乳腺・内分泌グループ)

松本 恵

はじめに

乳がんは若年患者さんも多く、発症が妊娠・出産の時期と重なることもあります。以前は母体の治療のために人工妊娠中絶が選択される事も多くありましたが、近年妊娠週数を考慮することで、胎児への影響を最小限にとどめながら母体の治療も可能であることが分かってきました。そこで今回「妊娠中の乳がん治療」について、日本でのガイドラインなどに沿ってまとめてみます。

妊娠中の乳がん

頻度は欧米のデータでは3000妊婦に

1人とされていて、徐々に増加傾向にあります。その原因の一つとして女性の晩婚化が考えられています。

画像診断

乳がんの診断に最も多く用いられるマンモグラフィ検査ですが、被爆が心配されます。しかし超音波検査では指摘できない石灰化病変の場合にはマンモグラフィが大変有用で、撮影の際に腹部の遮蔽を行うことで胎児への被爆量を半減することができるのとされていますので必要性があれば撮影を行います。超音波検査は妊娠中でも安全に施行できる検査で、細胞診や組織診を行う上でもとても重要な検査方法です。一方乳房のMRI検査は安全性の正確なデータがないため極力避けることが望ましく、またMRIの撮影時に用いるガドリニウム造影剤に関しては胎盤通過性があるとされており、妊娠中の使用は推奨されていません。

外科治療

妊娠中期(12週～28週未満)には安全性が確立しているとされ、この時期に必要であれば手術可能と判断します。一方で妊娠初期(0～12週未満)では流産の割合が高くなるとの報告があり、妊娠後期(28週以降)では胎児の成長や子宮が増大することで麻酔管理や手術のしにくさなども出てくるため、状況によっては産後まで手術

〈次ページへつづく〉

を遅らせることも検討します。

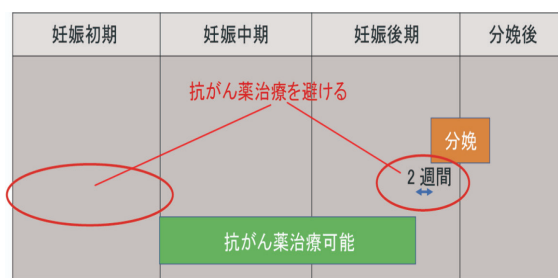
手術の術式では、米国のガイドラインでは乳房全切除術が推奨され乳房部分切除術はオプションであると記載されていますが、手術後遅くとも20週以内に遅滞なく放射線治療につなぐことができれば、妊娠中の乳房部分切除術も選択肢として挙げられます。

腋窩リンパ節転移の有無を確認するためのセンチネルリンパ節生検も、放射線同位元素を用いた方法(RI法)は胎児被曝量が微量であるため考慮しても良いとされています。

薬物治療

化学療法(抗がん剤)は妊娠中期以降であれば胎児に影響も少なく投与できることが示されていますが、妊娠35週以降は分娩期の副作用(骨髄抑制など)を考慮して化学療法を行わないことが推奨されています(図1)。

(図1)



投与薬剤として標準的に使用されているのはアンスラサイクリン系薬剤(AC、FACなど)が中心で、近年アンスラサイクリン系の代替方法としてタキサン系薬剤の使用報告も出てきています。薬物治療の前に手術を行った場合、手術後の薬物治療の導入は遅くとも12週以内に開始することが望ましいと考えられており、正期産まで12週以上期間があくようであれば妊娠中に薬物療法を考慮したほうが良いとされています。一方で抗HER2療法やホルモン療法は胎児発

育や子宮内環境への影響、胎児奇形を誘発する可能性などがあり、妊娠週数に関わらず行うべきではないとされています。

抗がん剤の副作用対策として使用される薬剤(支持療法薬)に関しても、妊娠中に使用可能なものが分かってきています。



< 分娩時期・分娩方法 >

一般的に分娩時期は妊娠37週を超えた正期産が望ましく、帝王切開の適応も一般的な適応に準じて行い、妊娠期乳がんであることで特別に変更する必要はありません。

< おわりに >

妊娠中の乳がん治療が目指すところは、「胎児への不利益を最小限にしながら、母体に最善のがん治療を行うこと」です。母体と胎児それぞれの立場から見たリスクを細かく評価しながら慎重に治療選択をしていく必要があるため、医療者は専門家がチームを組んで治療を進めていきます。ご不明な点があれば、まずは主治医にご相談ください。

【参考文献】

- * 乳がん患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療の手引き2017年版(日本がん・生殖医療学会編)
 - * 妊娠期がん診療ガイドブック 北野敦子他著
 - * 乳癌診療ガイドライン2018年版Ver.3 (日本乳癌学会編)
- <https://jbcs.xsrv.jp/guidline/2018/>



ベルサンテスタッフ(株) 保育業界へのスタッフ派遣に特化

ベルサンテスタッフ株式会社(大阪市淀川区、中野栄造社長)は、保育士や幼稚園教諭などを保育現場に派遣する人材派遣事業・人材紹介事業を展開しております。保育に特化した人材サービスを通じて「かわかる皆様が楽しく、幸せになるために保育業界に貢献していきます」をコンセプトに社会貢献活動にも力を入れており、その一環としてピンクリボン活動を推進してまいります。



ベルサンテスタッフの企業理念

派遣スタッフ800人に会社負担で乳がん検診

保育業界への同社の派遣スタッフ約800人のうち99%が女性。「近年乳がんや子宮頸がんの発症が増えている現状の中、20歳代～60歳代と年齢層の幅広い弊社派遣スタッフの皆さまが、安心してお仕事に従事して頂く環境を作りたい」(業務総務部・松浦直樹マネージャー)との思いから「女性特有の病気でもある乳がんについての正しい知識を多くの人に知って頂きたい」(同)と、2019年にJ.POSHのオフィシャルサポーターに登録されました。

主な取り組みは、ピンクリボン活動の一環でもあり福利厚生の実策として、女性スタッフ全員に会社経費負担により定期的に乳がん検診の受診を推奨されています。また、これまでに累計6,000人の来場者を数



える年に数回開催の保育学生を対象とした就職フェアでは、参加者に可能な限り乳がんの啓発も行っております。このほか、名刺や同社のパンフレットにピンクリボンのマークを掲載し、広く乳がんの啓発を実践されています。

同社は20年冬、オフィシャルインスタグラム「ほいコレ」の運営を始められました。厳しい保育業界のなか、活躍されている先生方にスポットをあて毎日情報発信を続けてまいります。現在4万人を超えるフォロワーがいるということで、今後「可能な限り乳がんに関する情報も発信していく方針です」(プロモーション事業部・野間直樹ディレクター)と語ってくれました。



「ほいコレ」オリジナルのWEB絵本「保育士さんに花束を」がリリースされました。どんな時も子どもたちのために懸命に保育されている現場の先生方への感謝の想いが込められた絵本です。こちらのQRコードからお読み頂けます。また、アプリ「絵本のひろば」にも閲覧できます。



女 人高野 天野山金剛寺のライトアップ

大阪府河内長野市にある真言宗御室派の金剛寺では、10月1日～3日に多宝塔がピンクにライトアップされました。(18時～20時、3日目の19時半からは医療関係者への感謝を込めて青色に)河内長野市役所文化財保護課と健康推進課のご協力を得たピンクリボン運動で、乳がん検診などの啓発を目的としてのイベントです。当日のライトアップの時間帯は、女性の拝観料は無料となっていました。また、お守り等の授与所の前には、市のがん検診のご案内が配置されていました。

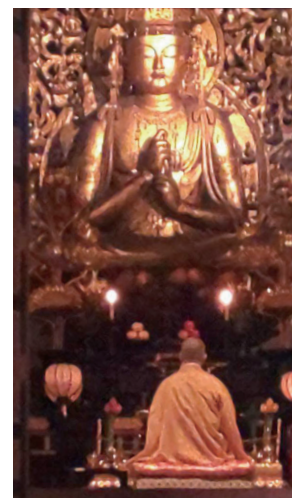
多宝塔ライトアップのチラシの裏面には、「乳がん検診を受けましょう」と乳がん検診についてや、セルフチェックの方法が載せられています。

私も、二日目の10月2日、友人と二人で参拝

させて頂きました。18時ちょうどに点灯され、境内には河内長野市在住のサキタハヂメ[※]さんが手がけられたインストゥルメンタルの音楽が響き、幻想的な雰囲気盛り上げていました。19時からは、金堂で女性の健康と幸福を祈願する法要が行われ、金堂の外からではありますが、普段は非公開の国宝大日如来坐像が拝観でき、多くの参拝者さんはこの時とばかりに、写真を撮っておられました。かく言う私も撮らせて頂きました。暗い中で厳かに輝く大日如来のお姿に感激しました。

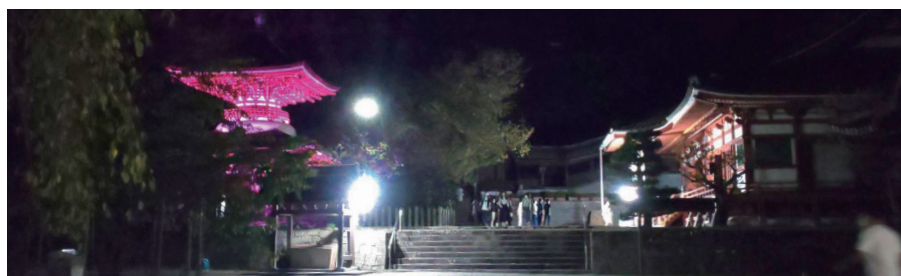
(※ サキタハヂメさんは、河内長野市にある金剛寺や観心寺で音絵巻という音と光のコンサートを開くほか、様々な趣向をこらした音楽活動を全国でされています。昨年のNHK朝ドラ「おちょやん」の音楽担当もされていました。)

認定NPO法人J.POSH 理事 平田以津子

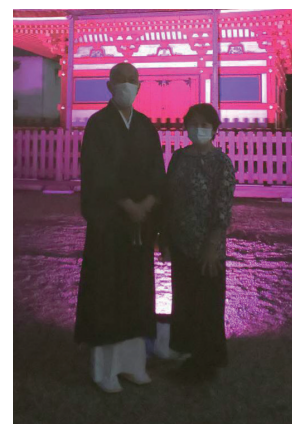


国宝大日如来坐像

金剛寺多宝塔ライトアップのチラシと、裏面に記載された乳房セルフチェックの方法と検診について



ライトアップされた多宝塔と境内の様子(10月2日)



ご住職の堀様と筆者

麴町学園 女子中学校 高等学校のピンクリボン運動

生徒会主催で取り組む

麴町学園女子中学校高等学校(東京千代田区麴町3-8)は、1905年に女学校として創立された歴史のある中高一貫教育校。生徒会が目標としている『社会に貢献できる学園』達成の一環としてピンクリボン運動に力を入れており、今年(21年)は10月14日～16日の3日間、「チャリティーデー&ピンクリボン運動」を生徒会(中学校=約300人、高校=約450人)主催で開催。生徒たちの乳がん啓発機運が高まっています。

生徒会でピンクリボン運動を始めるきっかけとなったのは、卒業した先輩が高校生の頃にニュージーランドの姉妹校に短期留学したこと。この姉妹校ではピンクリボン運動を展開しており、留学した生徒たちは刺激を受けました。帰国後、「私たちも乳がんについて学び、社会貢献の一環としてピンクリボン運動をやりましょう」と提案し、



チャリティーデーで文房具などを寄付をする生徒達

生徒会活動の一つとして同運動が始まりました。具体的な運動は中高生全員が3日間、生徒会が配った“ピンクのリボン”を身に付けて登校すること。自分の髪をピンクのリボンで飾る生徒もいれば、リボンのカバンに付ける生徒、制服に付ける生徒も…といった具合。

ピンクのリボンを身に付けてのアピール効果は大きい。家族や他校に通う友人から『それどうしたの』と質問が投げかけられ、自分たちで勉強した乳がんに関する知識を伝える機会が生まれた、といいます。

オンライン取材に答えてくれた高校生徒会長 田口さん、副会長 大野さん、中学生徒会長 戸田さん達は「自分の身近に乳がん患者はいませんが、世界中で乳がん罹患する人が多いことをピンクリボン活動に取り組むことがきっかけで知りました。早期発見、早期治療の大切さをまず生徒たちに知らせ、そこからその知識の輪が広がってくれたらいいと思います」と話してくれました。

同校は20年11月からJ.POSHに寄付金をお寄せ頂いています。国内や発展途上国の子供たちに、自分たちには不要になった本や服、文房具などを寄付する活動(チャリティーデー)と合わせてピンクリボン運動を息の長い活動としていく方針だということです。



生徒会から配布されたピンクリボンを、それぞれ身に付けて登校する生徒たち

乳がん大事典【BC Tube 編集部】

一般社団法人BC Tube は乳腺の治療や研究をされている医師たちが、正しい情報を発信する事を目的に設立され、その編集部が制作された「乳がん大事典」を、J.POSHのホームページに掲載させて頂く事になりました。乳がんに関する様々なテーマが画像とナレーションで分かりやすく解説されています。

乳がんの症状、検査、治療、遺伝についてなど、検診を受けようとする方、治療中の方、治療後の方、ご家族の方、乳がんを学びたい方、様々な方に向けた動画があります。乳がんの知識を深めるためにお役立て下さい。



YouTube チャンネルは
こちらから
<https://www.youtube.com/c/乳がん大事典-BCTube編集部>



乳腺科医が作る
乳がん大事典

乳がんに関する正確な情報を
多くの方々に届けるために、
BC Tube 編集部が
分かりやすい乳房や乳がんに関する動画を
YouTubeで発信しています



BC Tube 公式ホームページは
こちらから
<https://bc-tube.com>



2 021年度 J.M.S実施結果

国立がん研究センターは「昨年(20年) 1年間で、全国の医療機関で見つかったがんの件数が19年に比べ、1施設当たり平均4・6%減った」という調査結果を発表しました。検診で見つかったがんの発見件数を、過去4年平均と比べても12%減の落ち込みになった。新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言下で、がん検診が一定期間中止、感染リスクを怖れて受診を控える人々が増えたことなどが影響したとみられています。

同センターでは「コロナについて分からないことが多い中、受診控えが起きた。今はワクチンを接種できて、医療機関での感染対策も進んでいるので、心配な症状があるときはためらいなく受診して」と呼び掛けています。

J.M.Sの結果の詳細レポートは、ピンクリボンニュースに同封の「アンケート集計結果」にありますが、コロナ禍でのJ.M.S実施結果の一部を紹介します。

■ J.M.Sへの参加医療機関の推移について

参加する医療機関さんは年々増加の方向でしたが、2020年度は大幅に減ることになりました。今年度は若干増えましたが、ほぼ横ばいの状態でした。

地区	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
北海道	28	34	33	37	42	44	44	40	39
東北	18	17	17	18	18	17	19	15	15
関東	93	99	90	99	111	115	127	107	105

地区	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
東海	49	46	50	58	54	54	51	47	45
甲信越北陸	8	8	8	10	14	13	16	13	15
関西	61	62	64	64	66	69	68	58	64
中国・四国	42	40	44	46	46	45	48	43	46
九州・沖縄	53	60	58	62	62	59	65	52	51
合計	352	366	364	394	413	416	438	375	380

■ 受診者数の推移

1医療機関当たりの受診者は、ほぼ横ばいです。J.M.Sを始めたころより、大きな医療機関の参加が増えた結果と推察しています。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
受診者数	5,025	5,028	6,952	6,368	6,898	7,541	7,055	6,537	7082
アンケート回収医療機関数	229	255	256	258	287	295	307	273	281
1施設あたりの受診者数	21.9	19.7	27.2	24.7	24.0	25.6	23.0	23.9	25.2

■ J.M.Sの認知度調査について

2020年度に初めて13.3%と10%を超えましたが、今年度は9.9%とまた10%を割りこみました。また、今年度のアンケートで「J.M.Sを知らなかった」と言う項目を追加しましたが、知らなかったと回答した人は1,305人で知らなかったとした率は21.5%になりました。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
J.M.Sの認知度	4.3%	5.0%	5.7%	5.7%	6.8%	9.1%	7.1%	13.3%	9.9%

■ 受診理由の推移

2020年度はコロナ禍で受診機会が減少した結果、「日曜日だから」と言う受診理由を選ばれた人が多く、「不安があるので」と言う受診理由を選ばれた人が少なく、通常健診として利用された方が多かったと思われます。2021年度は例年と同じ比率となり、乳がん検査がコロナ禍の影響を脱したように思われます。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
日曜日だから	30.3%	33.9%	35.5%	37.6%	37.8%	38.0%	38.5%	43.6%	37.2%
無料クーポン	12.7%	19.9%	10.1%	7.8%	6.2%	6.5%	6.6%	6.2%	7.3%
市民検診	5.6%	15.8%	10.5%	10.2%	9.8%	9.3%	10.6%	11.6%	11.9%
不安があるので	9.7%	10.2%	19.8%	18.8%	17.9%	17.9%	17.4%	8.8%	17.4%

※年の構成比は一部無回答や質問項目を絞ったため合計100%になりません

事務局からのお知らせ

新着グッズのお知らせ

インフルガード® 抗ウイルス加工マスクを発売いたします。しっかりしたマスクで、感染対策に役立てて下さい。

■国際規格ISO18184試験合格

■抗ウイルス活性値 3.63

■ウイルス減少率99.9%以上

■4層構造のリーフ型マスク

立体構造で顔にフィットし、口回りは空間キープで呼吸が楽、口紅なども触れにくい。ノーズフィッター付き、個包装

ピンク、ベージュ、白各2枚の6枚セット

税込600円



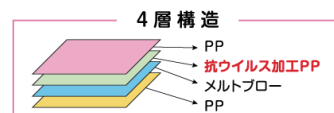
インフルガード® 抗ウイルス加工マスク

- ★口紅などが直接マスクに触れにくいので、女性の方にもおすすめ
- ★本体形状とノーズフィッターでメガネが曇りにくい構造
- ★4層構造で飛沫ウイルス、花粉、ほこりを99%以上カット
- ★SEK抗ウイルス加工/制菌加工試験合格済

グッズをご希望の方は下のQRコードより「ピンクリボングッズパーク」へアクセスしてください。また事務局へのメール(info@j.posh.com)でも承ります。



←ピンクリボン
グッズパーク
<https://goods.j-posh.com>



国際規格 ISO 18184 試験合格
抗ウイルス活性値 3.63
ウイルス減少率 99.9%以上

ピンクリボンNEWSあとがき

『新型コロナ新規感染者0』。筆者が住む枚方市(マイカタちゃいます、ひらかたです^_^=市のホームページより)の市役所から毎日LINEで送られてくる日別の市内の新規感染状況で、0の日が続くようになりました(21年12月下旬現在)。枚方市は人口が40万人を超える大阪府で5番目の都市です。市によると1日の新規感染者数のピークは21年8月29日の119人だそうですが、それ以降、初めて『0』になったのが10月11日。この短期間で『0』という急減さに驚きの念を禁じえません。海外では、いまだに日に何万人もの新規感染者数が報じられている国がある一方、我が日本では0の県も増えています。自分の住む地域の『0』は身近で説得力のある数値であり、開放感・高揚感を抑えることが出来ません。

日本の急減現象に関して専門家からは『急激な減少理由が分からない。“不可思議”な現象だ』という声も聞こえてきますが、急速拡大・急速終息のデルタ株の特性に加え、海外



の見方を含めた日本の急減理由として①ワクチン接種の浸透②マスク着用の抵抗感のなさ③緊急事態宣言の

効果④肺の異常の早期発見につながるCTやECMOの配備充実などです。

とはいえ第5波まで押し寄せ、第6波は避けられないという見方もあり、気のゆるみは禁物のようです。J.POSH事務局と患者会やピンクリボン関係者とのやりとりの中にも、以前のような緊張感も少し和らidedきた感もありますが、まだまだ気の緩みは禁物。この号がお手元に届くころも、このままゼロ行進が続くことを祈らずにはられません。(I.T)

と、ここまで書いたその後、「南アフリカで極めて感染力の強い新たな変異株『オミクロン株』出現、世界各地に拡大」のニュース。依然、緊張を強いられる日々が続きそうです。